

# 道徳だより

令和8年1月30日発行

1年

題材名:私は清掃のプロになる

ねらい:技術を磨くだけでなく、他者を思いやり心を込めて働くことが、自分の仕事の価値向上と充実した生き方につながっていくことの自覚を通して、社会や人々に貢献しようとする実践意欲を育てる。

- ・「心」を込めた仕事をする事で誰かの役に立ち、相手にとっても良い気持ちになったり感謝される自分も良い気持ちになったりし、仕事が苦にならないと思った。(1組)
- ・どんな仕事であっても、利用者に対する思いやりと、自分のやる気を両立させることが大切だと分かった。仕事場がどこであっても、頑張る気持ちを持ちたいと思った。(1組)
- ・自分のことだけ考えるのではなく、しなければ周りがどう思うのかというように、自分以外の人のことを第一に考えて仕事をする事が心を込めて仕事をするということだと思う。(2組)
- ・どんな小さいことでも、率先して行動するということがあまりできていないから、委員会活動などで改めて積極的に取り組みたいと思った。そうすることでやりがいを見つけられたら、これからの学校生活をよりよくできると思った。(3組)
- ・委員会の仕事や掃除をするときに、使う人のことを考えず、「早く終わらないかな。」と思ったこともありました。でもこれからは心を込めて仕事をしようと思いました。新津さんの文章を読み、心を込めるとはどういうことか知ることができてよかったです。(3組)

2年

題材名:マークはなんのために?

ねらい:困難を抱える人が生活しやすい社会は、誰もが生活しやすい社会でもあり、自分もそんな社会を作る一因であることを自覚し、主体的によりよい社会を作ろうとする実践意欲を育てる。

- ・私は、皆が生活しやすい社会にするためには、困っている人を見かけたら、マークの有無にかかわらず助けるべきだと思います。でも、援助してばかりではなく、自分がもし助けが必要になったら助けを求めてもいいと思います。(1組)
- ・私は、周りの人が困っている人がいたら、すぐに寄り添ったりしたいです。公共の場などで、助けを求める人がいたら、ただ見ているだけではなく、中学生の自分でもできるAEDを持ってくるなど、小さなことだけど、助けを求めている人の助けになれるようにしたいです。(1組)
- ・違いを認め合い、理解しようと心がけることが大切だと思いました。変に気を使いすぎず、困っているときは支え合うという社会を築いていけば、全員が過ごしやすくなると思う。(2組)
- ・誰もが暮らしやすい社会になるためには配慮などをしていくことが大切だと思いました。ヘルプマークやマタニティマークなどをつけていてもつけていなくても、配慮をしていくことが暮らしやすい社会になっていくと思いました。(2組)
- ・マークには大切な役割があると改めてわかることができました。私はマークを付けている人を見ると「あっ」と思って変な目でたまに見てしまうことがあるので助けてあげたり、援助したりして助け合える世界にしたいです。(3組)
- ・僕は、今までマークを気にしたことがあまりなかったけど、今日の授業でマークの大切さ、メリット、デメリットについて考えることができた。これからこのようなマークを付けている人がいたら必要としていたら助けてあげたいと思った(3組)

**3年**

**題材名：臓器提供**

ねらい：生命の大切さは何よりも優先されるものであるが、それは、生命の有限性や唯一性、連続性など多様な視点から考えられることを自覚し、自他の生命を尊重しようとする判断力を育てる。

- ・「生命の尊重」について、一人ひとりの意見が大切だと思った。家族が臓器提供に反対したとしても、本人が悩んで出した結論だと思うからだ。だけど、心のどこかで嫌だと思ってしまう自分がいて、とても難しいと思った。臓器提供をすれば、臓器提供を受ける人の生命を尊重することになると思うし、臓器提供をしなければ家族や自分の生命を尊重することになるのだと思う。一人ひとりの生命が尊いからこそ臓器提供を提供する・しないに正解はないし、この問題が難しく感じるのだと思った。（1組）
- ・今日の授業を通して、亡くなってしまった後について考えて、自分が亡くなって生きられないとなるなら、求めている人に提供して、楽しく自分の分まで生きてほしいと思った。「生命の尊重」とは、自分だけで考えられるものではないと思った。（1組）
- ・自分が家族の命や友達の命を大切に思っているのと同じくらい、自分の命も大切に、家族もそう思ってくれていると思うし、どんな人でも命を大切にしてくれる人がいると思った。死んだ状態でも命の大切さは変わらないけど、これから新しい人生を歩めるかもしれない命を譲ることも命を大切にすることだと思う。（1組）
- ・「自分の命を少し軽んじてるのかな」と思った。友達の発言の中の「親が今まで大切に育ててくれた」という言葉を聞いて、大切にしてくれている人もいるのではないかと考えたからだ。実際に、私は、大切な人、特に、母・父・妹の家族の臓器提供なんてできない。周りの命も、自分の命も大切にしたい。（2組）
- ・臓器提供についての考え方は人によって様々だし、必ずしも提供する＝良いこととも言えないけど、自分は提供してほかの人にまた命が繋がっていく方が役に立っている気がして嬉しいと思う。教科書の「あげたくない。でも、もらいたい。」という言葉も印象に残っていて、臓器提供を判断するのは時間がかかるし難しいことでもあるから、日常から少し考えておくことや、自分の意思を表示しておくことが大切だと思った。（2組）
- ・自分の臓器を提供することを希望するけど、実際にカードを書こうとしたら、決断できなくなりそうだなと思った。臓器を待っている人がたくさんいるのは理解しているし、自分もその立場だったら提供してほしい。でも、自分の体なのでやっぱり抵抗感があるなと思った。（2組）
- ・私は臓器提供について、家族と話したことがある。そのときは、私も親も臓器提供したいねと話していたが、授業をしてまた少し親と話したいと思った。臓器提供したくないという考えは全く悪いことではないし、わがままなことではないと思う。（3組）
- ・私は自分の臓器を提供するのはいいけど、家族のは嫌だなと思った。家族の臓器で誰かを助けられたとしても、自分にとって家族は大切なものなので、誰にもあげたくないと思った。でも、家族も私の臓器を提供したくないかもしれないので、命についてもっと考え、家族とも話してみたい。（3組）
- ・将来自分の子供ができたときに、高井さんの娘のような言葉を言われたら、娘の臓器は提供しないと答えるけど、世の中には苦しんでいる人がたくさんいるので、自分がもし脳死したら、その人たちのために臓器提供をしたいと思った。（3組）